

設 立 趣 意 書

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、日本政府は洋上風力発電を「再生可能エネルギー主力電源化に向けた切り札」として位置付け、導入を進めていく旨を示しています。これまでに、港湾法や海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律（再エネ海域利用法）に基づく発電事業者公募が複数の海域で実施され、既に一部の洋上風力発電所が運転を開始するなど、日本における洋上風力発電は順調にその歩みを進めています。また、現在着床式の洋上風力発電を中心に開発が進められていますが、近い将来開発の中心はより複雑な浮体式が中心になるものと見込まれています。

一方、市場の拡大と併せて、長期にわたる洋上風力発電事業を支える人材の確保と育成が急務ですが、将来の担い手となる人材を育成する教育・研究機関において、洋上風力業界が就職先として十分に認知されていないといった課題があります。また、洋上風力発電には様々な分野の技術・知見が横断的に求められるため、教育・研究機関のみでこれらの問題に対応することは容易ではないと考えられます。

そこで、人材の確保・育成にニーズのある産業界が協調し、産業界と教育・研究機関が連携して人材育成を進めていくことは、洋上風力発電に関わる事業者としても重要な課題であると考え、今回、産学連携によって人材育成を進めていくための枠組みとして、「洋上風力人材育成推進協議会（Education Council for Offshore Wind、略称：ECOWIND）」を立ち上げ、その事務局を一般社団法人海洋産業研究・振興協会が担うこととなりました。洋上風力産業に携わる幅広い分野の皆様のご賛同を頂き、ECOWINDへの参加をお願い申し上げます。

令和6年11月15日

洋上風力人材育成推進協議会
(Education Council for Offshore Wind : ECOWIND)